

平成30年12月10日

平成30年度  
日本リハビリテーション専門学校  
第1回学校関係者評価委員会議事録

1 日時

平成30年11月30日（金）16:00～17:00

2 場所

日本リハビリテーション専門学校第2校舎3階

3 メンバー

委員：高田、古川、近藤、三沢、山下、綿貫

事務局：二瓶、工藤、近野、深瀬、篠田、鈴木、畠山

4 会議内容

以下議題に添って進行

【議題】学校関係者評価委員会

- I. 平成30年度入学生アンケートについて
- II. 平成29年度卒業生アンケートについて
- III. 国家試験対策委員会より
  - ① 昨年度の報告
  - ② 問題点
  - ③ 今年度の取組み
- IV. 学会参加の概要等

事務局 工藤

学校関係評価委員会を開始、資料に添って説明。

<意見交換>

事務局工藤

平成30年度入学生アンケートについてご感想ご意見をお聞かせください。本校に入学した理由の一番目は「実習時間が多い」ということであるが、実際には実習時間が多いことが学生にとって負担になっていると見られるケースがある。違うように感じることもある。2020年施行の新指定規則では4年生の総合実習については2ヶ月で良いのでしょうか。

事務局近野

特に総合実習でどれくらいという時間の決まりはないと思います。トータルでは決まっています。

高田委員

ただ、課題に対する自宅での学習時間も実習時間の中に含まれる。それをどう解釈するかの問題がある。

- 事務局工藤           もし新指定規則においても2ヶ月×2回を行うならば、評価方法を変えていかなければ今の学生には厳しいのかもしれない。
- 古川委員            即戦力の卒業生を送り出すのが日リハの理念ではありませんでしたか。
- 事務局工藤           そういう風に願いたいのは山々ですが、それがクリア出来る学生が減ってしまっている現状もある。
- 事務局鈴木           現時点において理学療法学科の実習の単位としては、総合臨床実習はⅡ-A、Ⅱ-Bとなっているためそれぞれ合格しなければならない。
- 事務局篠田           昔それを一緒にしていたときは、1つ落としてしまうと次年度にまた初めからという事もあったため、1期目と2期目を別々の単位に切り替えた経緯はあります。新指定規則については、根本的な実習の評価そのものが変わる為、実習前後での学内での実技テストなども評価されるので、実習の対応が変わってきますから、今学科内で色々と検討しているところ です。
- 三沢委員            実習の受け入れ側も要求されることが変わってくるので、受け入れ側の準備もこれからしていかなければならない。仰るとおり、学内の前後の評価を含めてどのように連携を取っていくかも緊急の課題である。
- 高田委員            即戦力を養成するのか、それとも卒後教育を期待していくのか、それによって大きく違う。大学に関してはほとんどがクリニカル・クラーク・シップ（以下 CCS）に移行している。従来の実習とは違ってほとんど不合格となる学生が少なくなっている。ただ、大学と比べると専門学校は即戦力育成というものを打ち出してやっていった方が良いと思うが、ただ実習で不合格となる確率を減らす為には CCS という方法もある。
- 事務局篠田           おそらく実習指導者の研修制度を始めるときには CCS を前端的に打ち出したものになってくると思うので、それに併せて本校でも CCS に移行せざるを得ないだろうと考えている。
- 高田委員            CCS であればレポートを書かなくて良いし、3つ教えてそれをやらせてみて3つチェックが入っていれば良いという感じになる。
- 事務局篠田           本校の実習指導者は従来のやり方が良いという指導者が多いです。

- 高田委員 実はある指導者に言われたことがある。「CCS はやめてほしい。CCS を経て就職した学生は自分で評価できない、問題点出せない、ゴール作れない、プログラム書けない。それを再教育するのが大変だ」と。このあたりが今後 CCS の問題点としてクローズアップされていくだろう。
- 三沢委員 医学部教育の CCS をそのまま活用するとなると PT・OT ではやはりうまくいかない。
- 高田委員 PT・OT には卒業教育が国の制度としてはない。PT 協会としても折衝しているところではある。
- 事務局工藤 平成 29 年度卒業生アンケートについてご感想ご意見をお聞かせください。
- 古川委員 満足して卒業される学生が多くて、事務職員や教員に対しての評価も例年通り高くとても良いと思います。卒業生は財産だと思いますので、その卒業生を有効活用していくことがまた日リハの発展に繋がっていくのだと思います。
- 近藤委員 教員との関係性が近い部分が日リハの良いところだと思っていて、学生もそれがしっかりわかっているようなので、非常に良いと思いました。
- 山下委員 全体的にポジティブな印象の回答が多いですし、この学校の雰囲気の良いさがいつも出てくるところが日リハの強みなんだと感じて、卒業生として嬉しく思いました。
- 綿貫委員 学校の雰囲気が良いということが伝わるアンケート結果だと思います。
- 高田委員 先生方が大変に努力されていることが見えると思います。これを持続することは大変ですが、ぜひ後輩の育成に尽力いただければと思います。
- 三沢委員 カリキュラムの部分で、地域関係の科目に関心が低いことが少し気になりました。いま地域の繋がりが非常に大切なので、少しでもそういう意識を持って仕事ができるように学校でも取っ掛かりとして教えていただければと思いました。
- 事務局工藤 国家試験対策委員会からの報告を聞いてご感想ご意見をお聞かせください。

- 高田委員 報告のあった国試対策をすべてやるというのは大変なことである。国試対策はかなり充実されていると思う。
- 私の経験から一番の成功例は、3年次に低学力の2～3割くらいの学生に授業時間以外に集めて集中的にやったらとても伸びていくということがあった。3年次にそれができると4年次の国試対策も非常に楽になった。
- 三沢委員 素晴らしい取り組みだと思います。実際に成果も上がっているようですね。アンケート結果では「ほったらかし」という様な回答も見られたが、おそらく意図をきちんと説明していけば良いのだろうなと感じました。
- 事務局工藤 本日は貴重なご意見ご感想、誠にありがとうございました。